

# 協同的な学習で深める言語活動とその評価

～ヨーロッパ州を例に～

板橋区立赤塚第二中学校 中野 英水

## 1 はじめに

平成20年版の学習指導要領が完全実施されて早いもので2年が過ぎた。この間、さまざまところで授業研究が進められているなか、平成20年版学習指導要領にもとづくよりよい地理的分野の学習指導ができないものかと実践を重ねてきた。各種の法律が改正されるなかで学校教育法第30条第2項では「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」ことがはっきりと記されている。このことに筆者はとくに着目し、単元構成にあたってこのことが授業のなかに明確に反映できないかと考えてきた。今回示す実践事例はその一つである。

また、注目されている思考力・判断力・表現力を確実にはぐくむために言語活動の充実が不可欠であることも示された。単元構成の中核となる学習においては言語活動が充実した授業を実施し、思考力・判断力・表現力を育成していくことが重要であろう。今回示す実践事例では単元の軸となる授業にグループ活動を中心とした言語活動の場面を設定した。個人の思考をグループ活動という協同的な学習によって思考を補充・深化させ、個人の思考をより高めるのである。多くの生徒はこれらの学習活動によって思考の変容や深化をみせてくれた。さらにはこうした学習活動の成

果をどう評価していくかということも重要になってくる。今回の実践事例では個人の思考の変容や深化といったことに着目し、この点を評価の視点と考えた。おもにワークシートの分析によって思考・判断・表現の観点に対する評価を実施した。

さらに関心・意欲・態度の評価だけでなく、学習支援のための評価という視点から自己評価や自由感想の記述も実施した。これらの分析により机間指導だけでは見取ることができなかった生徒の実態が見えてきた。これら学習支援のための評価を生かして生徒の学習に対する関心や意欲をさらに高めたり、生徒の学習を支援したりすることをねらっている。

このような実践事例を通して本稿では、地理的分野における世界地誌の学習のあり方について述べるとともに、言語活動の充実や評価について考えていく。

## 2 授業実践について

### (1) 単元構成

今回示す授業実践例は、『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）第1部「世界のさまざまな地域」3章「世界の諸地域」より2節「ヨーロッパ州」（p.58～69）の実践である。本単元の指導では教科書の内容をもとに全8時間で以下のような単元構成をした（表1）。

本単元構成の特色は以下の3点である。

①単元全体の導入として、第1時にヨーロッパのイメージを考えるなかで単元に対して

表1 単元構成

第1時	ヨーロッパ州はどんなところ？	導入
第2時	ヨーロッパ州の国々と自然	大観
第3時	ヨーロッパ州の宗教と言語や民族	大観
第4時	拡大するヨーロッパ連合	追究
第5時	E U統合で変化する農業と課題	大観
第6時	E U統合で変化する工業と課題	大観
第7時	よりよいヨーロッパ州をめざして	追究
第8時	ヨーロッパ州のまとめ	まとめ

の学習意欲を高める学習を設定した。

- ②単元全体を大きく二つに分け、前半は大観の学習2時間をふまえて第4時にE U統合の理念を追究し、後半は同じく大観の学習2時間をふまえてE U統合の課題解決を追究する二段階の構成とした。
- ③単元全体のまとめとして学習内容を整理し、地図入りポスターにまとめる時間を設定した。

世界の諸地域の学習で8時間設定はやや時数が多いという印象もあるであろうが、単元の指導を終えてみると、8時間をかけただけのことはあって生徒の学習に対する充実感が高かったとみている。とくに単元の導入として1時間を費やすのはどうかと感ぜられるかもしれないが、この学習があってこそヨーロッパという地域に興味・関心をもち、その後の学習に対して積極的に取り組めたと考える。時間の制約があるなか、単元の時数設定には頭をかかえることが多いが、年間指導計画を工夫して、いくつかの単元ではじっくりと時間をかけて指導することは重要ではない

だろうか。

また、ヨーロッパ州の学習を大きく二つに分けた点については、まずヨーロッパ州はなぜ統合という道を選んだのかということをしかりと学習し、よりよいヨーロッパをめざしてヨーロッパの人々が選択したのが統合であるということを確認して理解してから、統合が進んでいくなかで深刻化している域内格差の問題を解決していく道を生徒に考えさせたかったからである。ヨーロッパの人々が理念をもって実現させた統合を、簡単に「問題が大きいならやめればよい」とは考えてはいけないのである。統合という大きな流れを維持しつつ統合の拡大によって生じた新たな問題を乗り越えるという発想で生徒に域内格差の問題を考えてほしいと思っている。こうした学習活動で養った持続発展的な思考は、地理的分野の最後で行う身近な地域の調査の学習において、身近な地域のよさや課題を自分ごととして考えるときに大きくその成果を発揮することになるであろう。社会参画の視点に立って実施する身近な地域の調査の学習に向けての布石の意味も込めている。

それでは、この単元のポイントとなる授業の内容について以下に示していく。

## (2) 授業実践1〈導入の学習〉

最初に単元構成の特色の一つとしてあげた単元の導入の学習について示す。授業の内容は以下のとおりである。

### 第1時：「ヨーロッパ州はどんなところ？」

#### ○本時の目標

- ・ヨーロッパ州のイメージや地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究する。
- ・イメージ図を活用し、ヨーロッパ州のイメージを、既習知識をもととして多面的・多角的に追究し、適切に表現する。

第1時

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州の位置を確認する。</li> <li>・ヨーロッパ州に含まれる主要な国を確認する。</li> <li>・ヨーロッパ州に関するものを写真や資料の中から判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に発言させて学習する雰囲気高めさせる。</li> <li>・ICT機器を活用して視覚的にとらえさせる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ州から連想するキーワードを三つ考えて付箋紙に書き込む。</li> <li>・書いたキーワードを4人班で話し合いながら台紙の上にまとめていく(イメージ図作成)。</li> <li>・イメージ図を参考にしてヨーロッパ州のキャッチフレーズをつくって発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で取り組ませる。</li> <li>・思い浮かばないときには教科書等を参考にさせる。</li> <li>・自由に考えさせる。</li> <li>・台紙への書き込みもさせる。</li> <li>・「ヨーロッパ州は～な地域です」の語形で考えさせる。</li> <li>・イメージ図を書画カメラで投影しながら発表する。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の発表を聞いて、もう一度キャッチフレーズを個人で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動や発表活動の成果を生かしながら、イメージを個人として深化させる。</li> </ul>

この授業では「ヨーロッパ州のイメージを自分なりにもとう」ということを学習のめあてとして生徒に取り組みさせた。ヨーロッパ州に対して関心を高めさせ、自分なりにヨーロッパ州のイメージを深めておいて、これから進むヨーロッパ州の学習の準備にしたいと考えて設定した。

(3) 授業実践2 (追究 (前半) の学習)

次に単元前半の追究学習として設定したEU統合の理由を考える学習について示す。授業の内容は以下のとおりである。

第4時：「拡大するヨーロッパ連合」

○本時の目標

- ・さまざまな資料からヨーロッパが統合した理由の根拠となる適切な情報を読み取る。
- ・さまざまな資料から収集した適切な情報をもとにヨーロッパが統合した理由を考察し適切に表現する。

第4時

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EUが統合していく過程を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後の大きな流れとして徐々に統合が東側へ拡大していったことを理解させる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示されたさまざまな資料が示す情報を近くの生徒と協力しながら読み取る。</li> <li>・読み取った情報をもとにヨーロッパが統合した理由を個人で考える。</li> <li>・個人で考えたことを4人班で意見交換をしながら深める。</li> <li>・班の考えをまとめて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EU統合の理由を考えるうえで有用な情報を読み取らせる。</li> <li>・資料から読み取った情報を根拠として考えさせる。</li> <li>・協同的な学びを通して自己の考えを深化させる。</li> <li>・班の意見として合意形成させ、発表させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレルギーに関する資料をみて、EU統合の理念を読み取る。</li> <li>・EUの人々が選択した統合という道に対して、自分の考えを文章でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦の回避、世界での経済的優位が統合の理由であることに気づかせるとともに、統合の背景には地理的要因もあることに気づかせる。</li> </ul>

この授業では提示された資料を根拠に、第2時、第3時で大観した既習事項も活用して「ヨーロッパはなぜ統合という道を選んだのかを考える」を学習のめあてとして生徒に取り組みさせた。提示した資料は①ヨーロッパの略年表、②面積・人口・貿易額・1人あたりのGDPにおけるEU・アメリカ合衆国・日本の比較、③ヨーロッパにおけるキリスト教各宗派の分布図、④ヨーロッパにおける言語系の分布図、⑤ブリュッセルを中心に半径800kmの円を書きこんだヨーロッパの地図の5点である(いずれも帝国書院発行の教科書、『中学校社会科地図』、『アドバンス中学地理資料』より抜粋)。これらの資料は第2時および第3時の学習で活用した既習資料である。これらを根拠として有用な情報を読み取らせ、ヨーロッパ統合の理由を考えさせた。

(4) 授業実践3 (追究 (後半) の学習)

最後に単元後半の追究学習として設定した

EU統合によって拡大したEU域内格差の解決を考える学習について示す。授業の内容は以下のとおりである。

**第7時：「よりよいヨーロッパ州をめざして」**

**○本時の目標**

- ・ EU域内格差の解決について関心を高め、意欲的に課題を追究する。
- ・ EU域内格差の解決についてEU統合の利点も生かしながら持続発展的に考察し、適切に表現する。

**第7時**

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・ EU統合の利点と問題点を振り返る。	・ これまでの学習を思い出し、統合の利点と問題点を確認させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料をもとにEU域内格差の実態について読み取る。</li> <li>・ EU域内格差を少しでも解消してよりよいヨーロッパにしていけるためにはどうしていけばいいのかを個人で考える。</li> <li>・ 個人で考えたことを4人班で意見交換をしながら深める。</li> <li>・ 班の考えをまとめて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業生産額の格差と工業生産額の格差がほぼ同じ状況で起こっていることに気づかせる。</li> <li>・ これまでの学習の成果を生かして、中学生なりに考えさせる。</li> <li>・ EU統合の利点も生かしながら持続発展的な視点で考えさせる。</li> </ul>
まとめ	・ 各班の発表をふまえてもう一度個人で再試行する。	・ 各班の発表を参考にしながら自己の考えをより深化させる。

この授業では第5時、第6時で大観したEU統合で変化する農業や工業の実態を学習するなかでみえてきたEU域内格差の問題に対し、「よりよいヨーロッパをつくっていくためにEU域内格差の解決策を中学生なりに考える」を学習のめあてとして生徒に取り組みさせた。思考の過程では、「問題点があるなら統合をやめればよい」という単純な発想にさせることなく、EU統合の利点を生かしなが

らよりよいヨーロッパをつくっていくためにはどうしたらいいのかといった持続発展的な視点で課題の解決策を生徒に考えさせた。

これら本単元の主要な部分となる授業では、言語活動の充実を意識して一斉指導型の授業形態をとらず、個人やグループでの思考の活動を重視した。個人で考えたものをグループ学習という協同的な学習活動で深化させていく学習によって、思考力・判断力・表現力の育成を計画的に単元構成に含めたのである。そして大観で得た知識を追究で生かしながら学習課題を考えていくという「習得→活用」型の単元構成により、習得の学習と活用の学習とがバランスよく実施できるように考えた。

**3 言語活動の充実について**

第1時の授業における言語活動としてはヨーロッパ州のイメージを膨らませるためにイメージ図（資料1参照）の作成をしながら4人班で意見交換をさせたことがあげられる。イメージ図とは、ヨーロッパのイメージを個人で付箋紙に三つ書かせたものをA4判の台紙に貼りながら関連するものをまとめたり、線で連結させたりしながらつくった図のことである。生徒はイメージ図を囲み、さまざまな意見を出し合いながら付箋紙を動かしてイメージ図をつくるようすがどのグループでもうかがえ、その過程でヨーロッパのイメージについて議論を重ねながら膨らませていた。このイメージ図をグループ活動で使用したメリットは、お互いに考えていることがイメージ図の中に表現され、4人の考えが融合していく過程を視覚的にとらえることができることである。言葉だけでイメージを話し合うグループ活動よりも活発な討論が展開できていたと思われる。思考力・判断力・表現力の育



## 資料3：ワークシートと生徒の記述（第4時）

③【ヨーロッパの人々が統合という道を選んだ理由を考えよう】

読み取った資料を根拠としてヨーロッパの人々が統合という道を選んだ理由を考えよう。

①：個人で考えよう。

ヨーロッパの人々は…  
小さな国が集まって  
大きな国にする。  
のために統合という道を選んだ。



②：個人で考えたことをもとに、グループでさらに考えてみよう。

ヨーロッパの人々は…  
小さな国が集ま  
る大きな国にする  
のために統合という道を選んだ。



③：各グループの発表を見て、もう一度個人で考えてみよう。

ヨーロッパの人々は…  
国々をまとめ  
戦争を無くし平和にする  
のために統合という道を選んだ。

## 資料4：ワークシートと生徒の記述（第7時）

②【EU域内格差をどう解決していくか】

EU域内でおこっている格差を少しでも解消してよりよいヨーロッパをつくっていくためにはどうしていけばいいでしょうか。EU域内格差の解決策を考えよう。

①：個人のお考え

・西側にある工場などを東側に移転させる  
・東側にも働ける場所を増やしていく。  
・EUの中でも発展している国が経済が悪い国と協力する。



②：グループでの考え

EU内で集金をして援助する。  
↓  
経済が悪い国はそのお金で職場を増やす。



③：発表を聞いて、個人での再思考

EU内で発展している国が経済の悪い国にお金を貸す。→経済が安定したら返す。  
EUで協力しあえば格差をなくす。

## 〈単元の目標〉

①ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとする。

②ヨーロッパ州の地域的特色を、EUの発展と地域間格差という主題をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。

③ヨーロッパ州の地域的特色に関するさまざまな資料を活用し、有用な情報を適切に読み取ったり、図表にまとめたりする。

④ヨーロッパ州についてEUの発展と地域間格差という主題をもとに地域的特色を理解し、その知識を身につける。

## 〈単元の評価規準〉

## ①社会的事象への関心・意欲・態度

EUの発展と地域間格差という主題をもとに課題の追究やグループ活動などに積極的に取り組みながらヨーロッパ州の地域的特色や地域の持続発展に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。

## ②社会的な思考・判断・表現

課題の追究やグループ活動などを通じてヨーロッパ州の地域的特色や地域の持続発展を、EUの発展と地域間格差という主題をもとに多面的・多角的に考察し、その結果や過程を適切に表現している。

## ③資料活用の技能

基本図や主題図、統計資料、景観写真などヨーロッパ州の地域的特色や地域の持続発展に関するさまざまな資料を活用し、有用な情報を適切に読み取ったり、図表にまとめたりしている。

## ④社会的事象についての知識・理解

学習したことを適切にまとめたり整理したりしながらヨーロッパ州の地域的特色や地域の持続発展について、EUの発展と地域間格差

## 4 評価について

## (1) 単元の評価

本単元の指導では、ヨーロッパ州の地域的特色を「EUの発展と地域間格差」とし、以下のような目標と評価規準を設定した。

という主題をもとに地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

そしてこれらの目標や評価規準をもとに単元の各授業においては、以下に示した評価実施計画を作成し実施した。

### 〈単元における評価実施計画〉

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
第1時	◎	○		
第2時	○		○	◎
第3時	○		○	◎
第4時	○	◎		
第5時	○		○	◎
第6時	○		○	◎
第7時	○	◎		
第8時	○		◎	○

※◎はその授業でとくに重視する観点を示す。

こうした計画で実際に評価を行ったが、ここではとくに言語活動に関係する関心・意欲・態度と思考・判断・表現の評価について述べたいと思う。

### (2) 関心・意欲・態度の評価

社会的な事象への関心・意欲・態度については、毎時間活用しているワークシートの感想欄の分析を中心に、学習課題やグループ学習への取り組みのようすなどを観察した資料を活用して評価した。ワークシートの感想欄の評価基準（B基準）は以下のとおりである。

学習のめあてを理解し、本時の学習活動について積極的に取り組み、疑問や成果などが具体的に書かれている。

以下にB評価とA評価の例を掲載する。

### 〈B評価の例（第1時のワークシート）〉

今日の授業で考えたことや感じたことを書きましょう。

ヨーロッパは国がたくとんあり、芸術的な物が多いな  
と思いました。  
ヨーロッパについてもっと詳しく調べたいです。

### 〈A評価の例（第1時のワークシート）〉

今日の授業で考えたことや感じたことを書きましょう。

今までヨーロッパというよく食べ物(フランスパン、イスタなど)  
や、街のきれいなところが思い浮かぶけれど、自然が豊か  
な所や建造物があるらしいと聞いたことがありません  
と改めて思いました。これからまたヨーロッパについて知りたいです。  
(特に産業が気になります)

B評価の例では学習の成果と意欲が述べられており評価基準を満たしているが、A評価の例はより具体的な表現であり、「これからもっとヨーロッパについて知りたいです。(とくに産業が気になる)」といった明確な学習意欲が述べられている。このような差をワークシートの表現から読み取って評価を行った。

### (3) 思考・判断・表現の評価

社会的な思考・判断・表現については第1時、第4時、第7時の授業で評価した。実際の評価は、個人の思考の深化をワークシートの記述から読み取ることで行った。思考の過程は前述したとおり「個人→グループ→全体→個人」の流れで行っている。ここで評価のポイントは、最初の個人の段階から最後の個人の段階になったときに、いかに思考が変容・深化しているかである。このポイントに着目しながら以下の評価基準（B基準）で評価を実施した。

学習のめあてを理解し、学習課題を多面的・多角的に考察しながら自分の考えを変容・深化させ、その結果や過程を適切に表現している。

なお、筆者はグループ活動での評価を、この観点の評価に加えないことにしている。これは筆者が、思考とはあくまで個人の思考で深化させる手段であると考えていることと、

